

大阪湾再生行動計画の実施状況について



元気UP! 関西

平成 19 年 1 月 26 日
大阪湾再生推進会議

目 次

【大阪湾再生行動計画について】	1
1. 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成 18 年度の主な取り組み事例）	2
1-1 環境再生への取り組み	2
(1) 市民による環境モニタリングシステムの構築検討調査（全国都市再生モデル調査）	2
(2) 南港生き物育て隊アオサ取り	3
1-2 環境学習への取り組み	4
(1) 海と自然の環境学習（なぎさの楽校、夏休み海の教室）	4
1-3 水辺に親しむ市民参画の企画	5
(1) 御前浜水環境再生実験	5
(2) 大阪湾見学バスツアー	6
1-4 市民フォーラム	7
(1) 市民フォーラムの開催	7
1-5 産官学連携の広域的・横断的な取り組み	8
(1) 大阪湾再生水質一斉調査	8
1-6 大阪湾再生に関する情報発信	9
(1) 「大阪湾再生ニュース」の公開	9
2. 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み（平成 18 年度の主な取り組みの概要）	10
2-1 水質の改善（年間を通して底生生物が生息できる水質レベル・人々の親水活動に適した水質レベルの確保）	10
(1) 水質総量規制制度に基づく総量削減	10
(2) 下水処理場からの排出負荷量の削減	11
(3) 河川浄化	12
(4) 森林整備	13
(5) 雨水流出の抑制	14
(6) 生物による水質浄化能力の強化（実験的な取り組み）	15
2-2 多様な生物の生息・生育場の再生（海域生物の生息に重要な場の再生）	16
(1) 藻場・干潟等の創出	16
2-3 親水性の向上（人々が快適に海に触れ合える場の再生、臨海部での人々の憩いの場の確保）	17
(1) 臨海部における親水緑地整備	17
(2) 親水活動の実施	18
2-4 浮遊・漂着・海底ごみの削減（ごみのない美しい海岸線・海域の確保）	19
(1) 河川清掃活動	19
(2) ごみ回収（漂着、浮遊、海底ごみ）	20
(3) 浮遊ごみ流出機構の把握	21

2-5 重点エリアにおける集中的・先駆的な取り組み	22
(1) 尼崎臨海部、堺浜周辺における取り組み	22
3. 大阪湾再生のためのモニタリング	24
3-1 大阪湾の環境を監視するためのモニタリング	24
(1) 効果的・効率的なモニタリングの実施	24
(2) モニタリング内容の充実化	25
3-2 市民一人一人が参加するモニタリング	26
(1) 市民参加によるモニタリングの実施	26
3-3 大阪湾のモニタリング結果など環境に関する情報の共有化と発信	27
(1) 大阪湾環境データベース	27
4. 目標の達成状況	28
(1) 海域生物の生息に重要な場を再生する	28
(2) 人々が快適に触れ合える場を再生する	29
(3) 臨海部での人々の憩いの場を確保する	29
(4) ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	30
5. 市民参加の取り組みを中心としたマスコミ報道状況（平成 18 年 4 月～平成 19 年 1 月）	31
(1) マスコミ報道の状況	31
(2) テレビ放映等	31
(3) 新聞等	31

【大阪湾再生行動計画について】

1) 経緯

- 平成 13 年 12 月：都市再生プロジェクトに「海の再生」を位置付け（都市再生本部三次決定）
- 平成 15 年 6 月 26 日：都市再生本部会合において「大阪湾再生」に取り組むことに
- 平成 15 年 7 月 28 日：関係省庁及び関係地方公共団体等^{注)}が「大阪湾再生推進会議」を設置
- 平成 16 年 3 月 26 日：「大阪湾再生行動計画」を策定
- 平成 17 年 3 月 30 日：平成 16 年度のフォローアップ結果を取りまとめ、発表
- 平成 18 年 3 月 30 日：平成 17 年度のフォローアップ結果を取りまとめ、発表

2) 具体的な内容

- 大阪湾の水環境の現状を踏まえて、
 - ・大阪湾再生に向けての湾全体の目標の設定
 - ・湾奥部を中心とした重点エリア・アピールポイント等の設定
 - ・目標達成のための陸域負荷削減、海域における環境改善対策及びモニタリング（監視）の実施
- などの関連施策及びその計画的な推進について明らかにしたもの

3) 目標

～森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにわ）の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する～

4) 具体的な目標及び指標

- ①年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する
→『底層 DO（溶存酸素量）』5mg/L 以上（当面は 3mg/L 以上）
- ②海域生物の生息に重要な場を再生する
→『干潟・藻場・浅場等の面積、砂浜・磯浜等の延長』
- ③人々の親水活動に適した水質レベルを確保する
→『表層 COD』散策、展望：5mg/L 以下、潮干狩り：3mg/L 以下、海水浴：2mg/L 以下、ダイビング：1mg/L 以下
- ④人々が快適に海にふれ合える場を再生する
→『自然的な海岸線延長』
- ⑤臨海部での人々の憩いの場を確保する
→『臨海部における海に面した緑地の面積』
- ⑥ごみのない美しい海岸線・海域を確保する
→『浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ』

【大阪湾再生のイメージ】



5) 計画期間

- 平成 16 年度から 10 年間

^{注)} 大阪湾再生推進会議：内閣官房都市再生本部事務局、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構で構成（注：経済産業省は平成 17 年 3 月、堺市は平成 18 年 3 月から参画）

1. 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成 18 年度の主な取り組み事例）

1-1 環境再生への取り組み

(1) 市民による環境モニタリングシステムの構築検討調査（全国都市再生モデル調査）

- 釣りという市民に親しみのある視点での環境モニタリングに多くの市民が参加することで、大阪湾再生に向けた意識高揚を図るとともに、環境モニタリング結果をより早く、より身近なものとして多くの市民に情報発信する体制を構築しています。

【場所】大阪湾沿岸

【主体】NPO 法人釣り文化協会（協働者：近畿地方整備局、大阪府）

【取り組み状況】

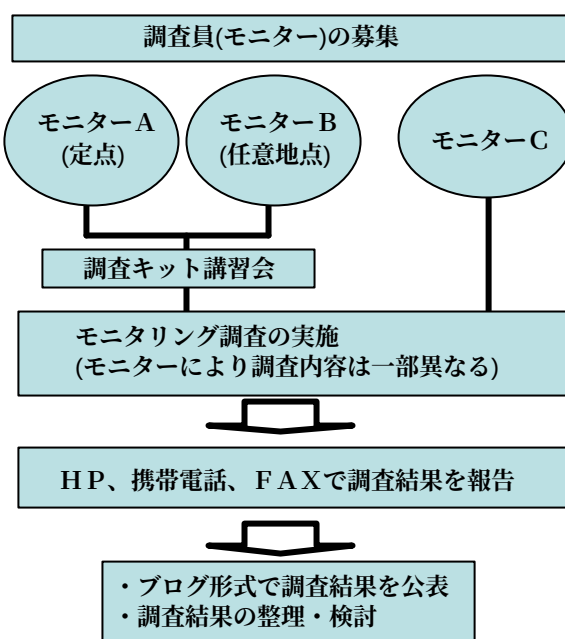
- ・ 7月上旬：モニター募集
- ・ 9月～12月：モニタリング実施（8月：一斉調査実施）
- ・ 3月：シンポジウム開催



水質一斉調査の様子



調査キット講習会の様子



調査フロー



モニタリングキット

(2) 南港生き物育て隊アオサ取り

●野鳥が利用し、多様な生きものが生息できる湿地（干潟など）を保全するため、大量に発生するアオサ藻類の除去作業「アオサ取り」を、行政やN G O・N P O 法人と市民が協力して実施しました。「アオサ取り」という体験を通して、生きもの豊かな湿地の存在や海と湿地の重要性について知る機会とします。

【場所】 大阪南港野鳥園

【主体】 N P O 法人南港ウェットランドグループ、大阪市

【取り組み状況】

実施日：毎年 6～7月に3・4回実施

平成18年度は6月25日、7月2日、9日、23日（毎回40名以上参加）



大阪南港野鳥園でのアオサ取りの様子



アオサ取りの様子

南池 ハマシギ飛来

1-2 環境学習への取り組み

(1) 海と自然の環境学習（なぎさの楽校、夏休み海の教室）

- 長松自然海浜保全地区（泉南郡岬町）において磯の生き物観察をする体験環境学習「なぎさの楽校」を実施しました。
- 大阪湾を対象に船上からの海洋観測や栽培漁業の体験などを行う「夏休み海の教室」を実施しました。

【場所】①なぎさの楽校：長松自然海浜保全地区（泉南郡岬町）

②夏休み海の教室：大阪湾、大阪府立水産試験場

【主体】大阪府、（社）瀬戸内海環境保全協会

【取り組み状況】

①なぎさの楽校

平成 18 年 8 月 9 日（水）：小中学生を対象に、自然海浜をフィールドにした磯の生き物観察をする体験環境学習を実施

②夏休み海の教室

平成 18 年 7 月 23 日（日）・24 日（月）：小中学生を対象とした船上からの海洋観測や栽培漁業体験や大阪府立水産試験場所有の調査船「おおさか」による海洋観測、栽培漁業の体験、小型地びき網を使用した魚の採集などを実施



「夏休み海の教室」の実施状況

1-3 水辺に親しむ市民参画の企画

(1) 御前浜水環境再生実験

- 阪神間にわずかに残る自然海岸の水環境を改善するために、武庫川の砂を用いて造成した浅場で生物の着生、水質の変化などをモニタリングし、浅場の効果を評価する実験を市民と協働で実施しています。

【場所】御前浜（香櫨園浜）

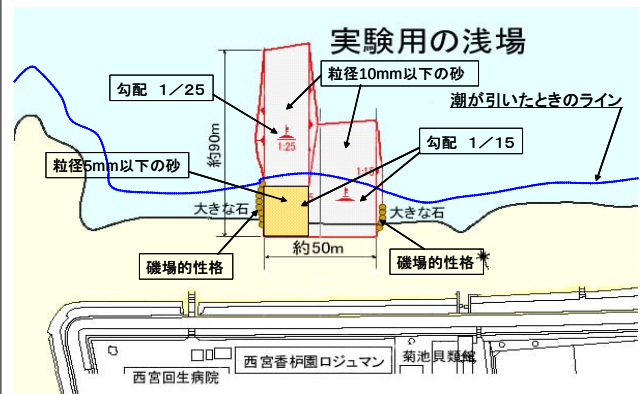
【主体】兵庫県、(財)国際エメックスセンター

【取り組み状況】

- ・阪神間にわずかに残っている自然海岸である御前浜の水環境を改善するため、「貝が夏も生息し、水に触れて遊べる海」を目指して造成した浅場での生物の着生状況、水質の変化などについて、住民参加による①浜辺調査（みんなの浜辺調査）で調べ、モニタリング結果を共有する②フォーラムを開催する。



実験用浅場の位置図



浅場の全景（石より向こう側）

【浅場を利用する時の注意】

①浅場への出入りは自由です。

遊びの場、また環境学習の場としてご利用ください。

②実験場のため、

アサリなど、生き物を浅場から持ち出すこと、
浅場に生き物を持ち込むことは **禁止** します。



③浅場の両側に礫場となる大きな石があり、石の周りには、
カキ殻がついていたり、急に深くなったりしているの、
けがをしたり、おぼれたりしないように注意してください。



↑ 浅場に設置した看板

<みんなの浜辺調査の概要>

- ・開催時期：夏季及び秋季の大潮時
- ・参加人員：各 50 名
- ・内容：御前浜の生物の生息状況や底質、水質の状況を市民参加で調査する。
西宮自然保護協会等地元の活動家の協力を得て行う。

<フォーラムの概要>

- ・開催時期：平成 19 年 2 月
- ・参加人員：100 名
- ・フォーラムの内容：夏季、秋季のワークショップの報告、専門家によるモニタリングの報告、造成した浅場の見学など

1-4 市民フォーラム

(1) 市民フォーラムの開催

- 「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」、「近木川市民フォーラム～川から海へ持続可能な環境学習・子どもの参画～」等の市民フォーラムを開催します。

①ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム

【日時】平成19年3月4日（予定）

【場所】岸和田市自然資料館、岸和田市市民会館

【主催】大阪湾見守りネット、近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所（調整中）

【内容】テーマを干潟とし、岸和田漁港等の見学会や大阪湾の干潟の話などわかりやすく解説するミュージアムトークを催します。

②近木川市民フォーラム～川から海へ持続可能な環境学習・子どもの参画～

【日時】平成18年2月10日（予定）

【場所】貝塚市浜手地区公民館

【主催】近木川流域自然大学研究会、貝塚市立自然遊学館

【内容】「近木川で環境学習を継続するためには」をテーマにしたパネルディスカッションを中心としたフォーラムを開催します。



大阪湾思いでカフェ 古き良き時代を語り合う



パネルディスカッション

（昨年の「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」より）



講演風景

（大阪湾再生市民フォーラムより）

1-5 産官学連携の広域的・横断的な取り組み

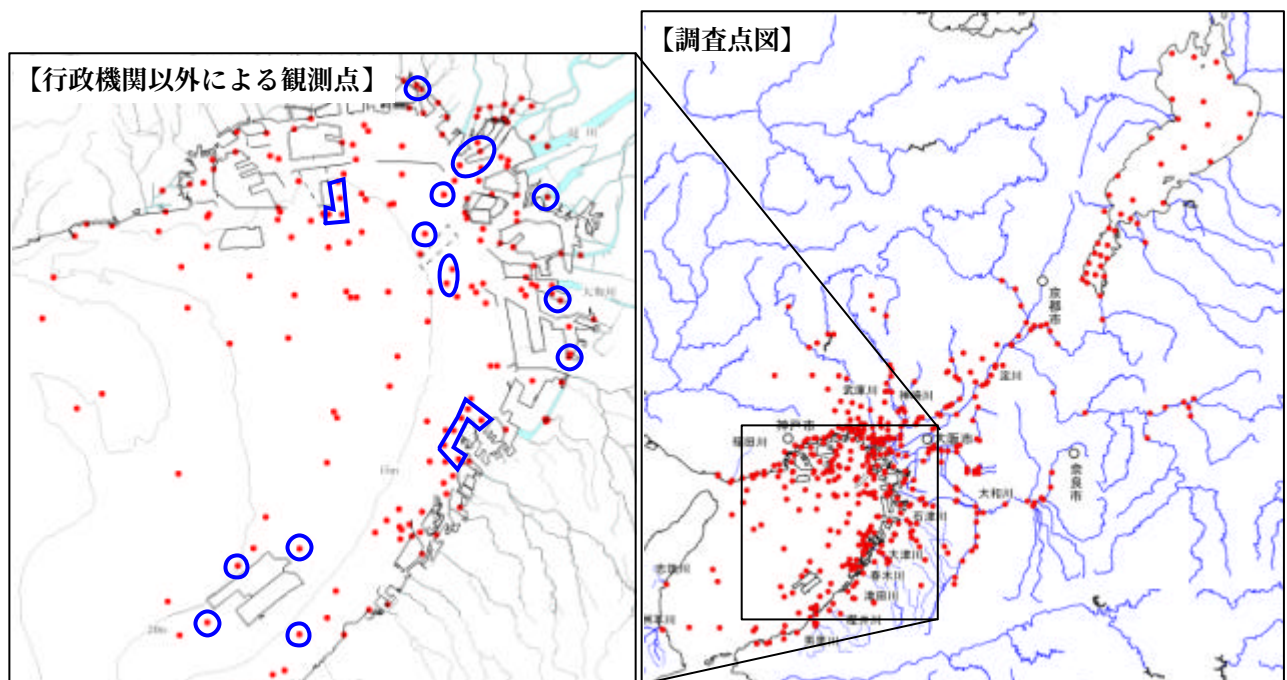
(1) 大阪湾再生水質一斉調査

- 「大阪湾再生行動計画」による取り組みの一環として、平成 18 年 8 月 2 日を中心に、行政機関のみならず臨海部の事業者や企業等と協働して多様な主体の連携による水質一斉調査を実施しました。(平成 16 年度より 3 回目)

【取り組み状況】

〔調査点数〕

- ・海域：国及び自治体 188 地点、事業者・企業 28 地点、大学 1 地点 計 217 地点
- ・陸域：国及び自治体 266 地点（一部 8/2 前後に実施）、下水放流水データも活用
- ・合計：483 地点
- 次年度も引き続き一斉調査を実施する予定（8 月 7 日予定）です。



【参加主体：海域】

国土交通省近畿地方整備局神戸港湾事務所、第五管区海上保安本部、大阪府（環境情報センター、港湾局、南大阪湾岸流域下水道事務所、府立水産試験場）、大阪市（都市環境局、港湾局）、堺市環境局、兵庫県（環境局、港湾課）、神戸市、西宮市、尼崎市、**大阪湾広域臨海環境整備センター**、**関西国際空港株式会社**、**関西電力株式会社**、**阪神高速道路株式会社**、**新日本製鐵株式会社**、**JFE スチール株式会社**、**大阪市立大学**、大阪湾再生推進会議事務局

【参加主体：河川域】

国土交通省近畿地方整備局、大阪府、大阪市、堺市、枚方市、八尾市、高槻市、茨木市、東大阪市、豊中市、吹田市、寝屋川市、岸和田市、兵庫県、神戸市、尼崎市、西宮市

1-6 大阪湾再生に関する情報発信

(1) 「大阪湾再生ニュース」の公開

- 大阪湾再生の取り組みについて積極的な情報発信を行うため、web 上で「大阪湾再生ニュース」を公開（平成 18 年 12 月 15 日）しました。



**ぼち 大阪湾再生ニュース
ぼち
いいこか**

人と海の関わりの再生をめざして・・・
楽しみながら取り組む大阪湾再生の現場を伝える

**Web Site
2006.12.15
スタート**



<http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/suishin/boti2/>

大阪湾再生推進会議は「大阪湾再生ニュース・ぼちぼちいいこか」の配信を始めます。愛称のぼちぼちいいこかは、「ゆっくり・あせらず・前向きに」を関西弁独特のニュアンスで表現したもの。大阪湾再生推進会議の取り組みの姿勢を示しています。

大阪湾再生は大阪湾の環境を“健康体”に戻す取り組みで、海と人との豊かな関わりの再生を目指しています。スタートから3年が経過し、沿岸各地で市民グループなどによる「主体的に楽しみながら」海の環境再生に取り組む活動が生まれている中、「ぼちぼちいいこか」では、さまざまな活動現場の様子や関わっている人々の生の声、特に次世代の声を紹介し、みなさまに大阪湾再生の動きをお伝えしてゆきます。

vol.1 では・・・



ダイバーの特技生かして「地球にいいこと」を
NPO 法人 CAN 理事 松本 貴美枝さん



～海とCANと僕～「海の感動」を伝えたい！
横田 涉くん

※ 行政事業紹介「下水道高度処理化事業について」ほか、プリント用にダウンロード可能な PDF 版もご用意してございます。



大阪湾再生推進会議 発行
大阪湾再生ニュース【ぼちぼちいいこか】

2. 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み（平成18年度の主な取り組みの概要）

2-1 水質の改善（年間を通して底生生物が生息できる水質レベル・人々の親水活動に適した水質レベルの確保）

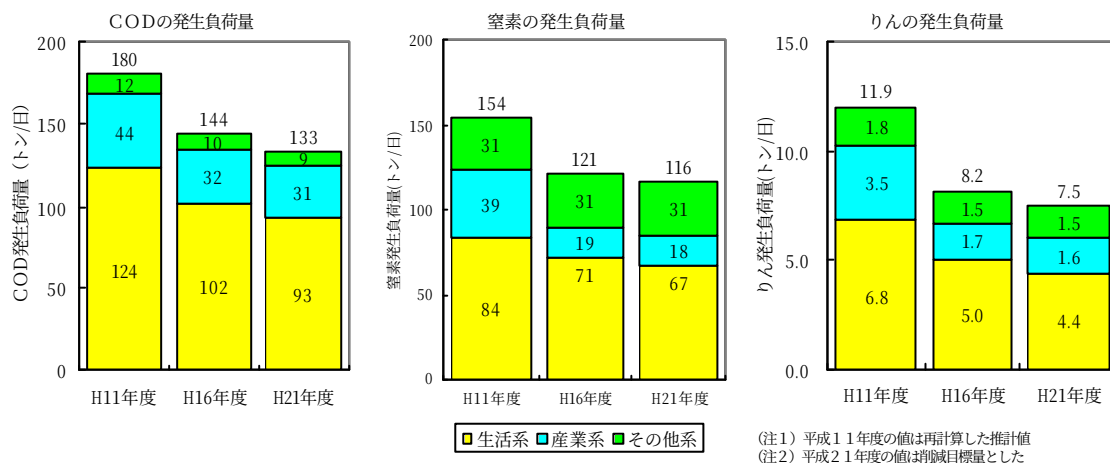
(1) 水質総量規制制度に基づく総量削減

●平成21年度を目標年度とする総量削減基本方針を策定

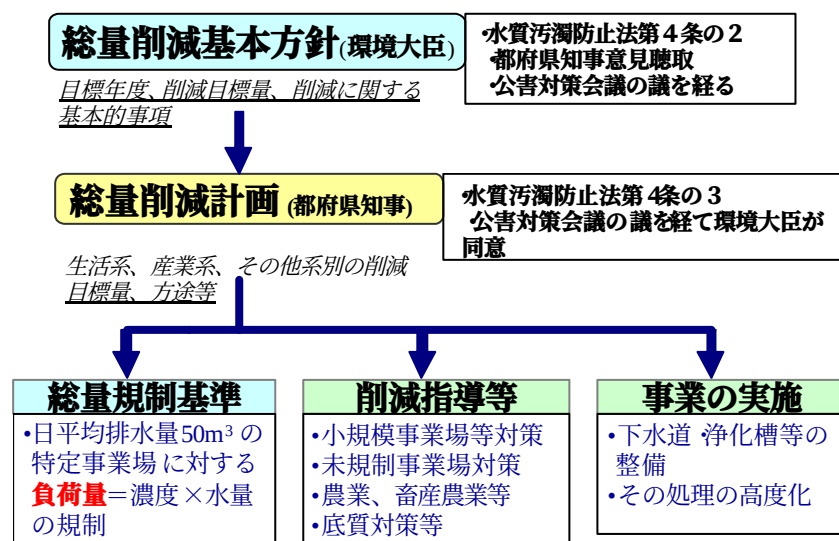
行動計画においては、計画期間内に、大阪湾における早急な水質改善のため、水質総量規制制度に基づき各府県が策定する総量削減計画の着実な実施及び事業場に対する総量規制基準の遵守の徹底等を図るとともに、平成16年度に第5次総量規制の目標年度を迎えることから、第6次総量規制の検討を行うこととしています。

今年度は、平成21年度を目標年度とする第6次総量規制に係る、「化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量についての総量削減基本方針」を策定するとともに、「化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量についての総量規制基準に係る業種その他の区分及びその区分ごとの範囲」を告示しました〔環境省〕。

また、次年度以降は、府県において第6次総量削減計画を策定し、新增設の事業場に対して新たな総量規制基準の適用を開始する予定です。



大阪湾における汚濁負荷量の推移及び削減目標量



総量規制制度の概念図

(2) 下水処理場からの排出負荷量の削減

- 新たな下水処理場の供用開始へ向けた整備<継続>
- 既存の下水処理場を高度処理化<継続>
- 「合流式下水道緊急改善計画」に基づく合流式下水道の改善<継続>

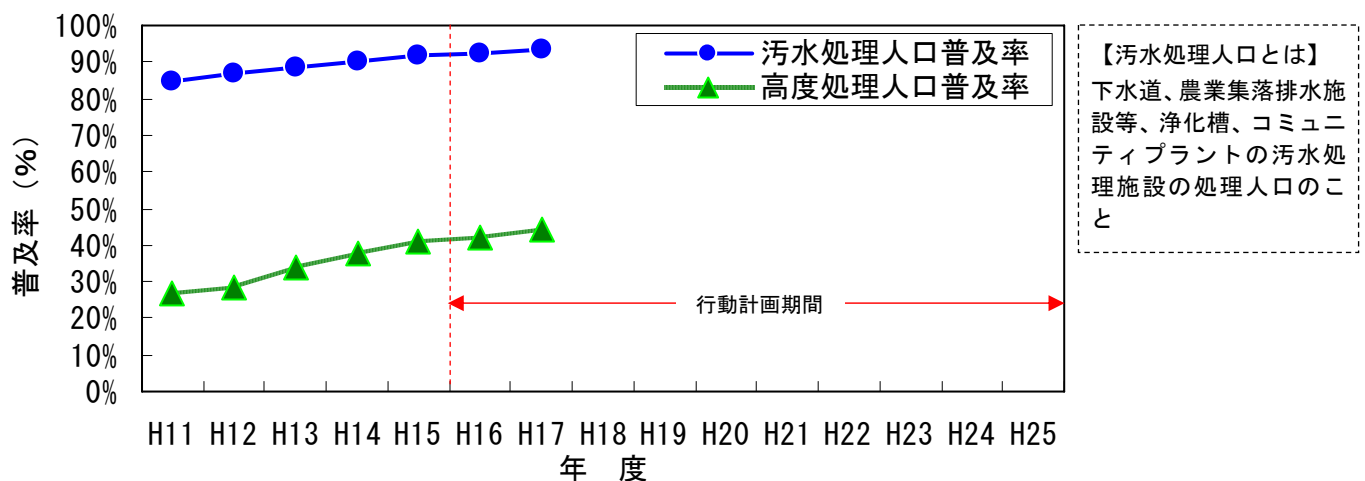
行動計画においては、陸域からの汚濁負荷を削減するために、以下のとおり下水道事業を推進することとしています。

- ①大阪湾の集水域内で下水道事業を予定している全地域において事業に着手するものとし、新たに4処理場の供用開始を目指す
- ②新たに23箇所の処理場での高度処理化を目指す
- ③合流式下水道の改善については合流式下水道緊急改善計画を平成16年度末までに策定し、早期にこれに基づき重点的・効果的に改善事業（ろ過スクリーン設置、貯留施設、消毒施設整備等）を実施する

今年度は、昨年度に引き続き、以下の事業を実施しました。

- ①信楽町単独公共下水道〔滋賀県〕、寝屋川北部流域下水道（なわて水みらいセンター）及び寝屋川南部流域下水道（竜華水みらいセンター）〔大阪府〕の3処理場の供用開始へ向けた事業の継続
- ②甲子園浜浄化センター、枝川浄化センター〔兵庫県〕の2処理場での高度処理施設整備着手、石田水環境保全センター〔京都市〕、川俣水みらいセンター〔大阪府〕、武庫川下流浄化センター〔兵庫県〕及び垂水処理場〔神戸市〕高度処理施設整備事業の継続
- ③流域の下水道管理者による「合流式下水道緊急改善計画」に基づく改善事業の継続

また、次年度以降も、引き続き上記の事業を継続するとともに、下水処理場の高度処理施設整備については他の処理場についても順次着手する予定です。



汚水処理人口普及率と高度処理人口普及率の変遷

(3) 河川浄化

●大和川（東除川、西除川）、寝屋川、平野川、石津川、樫井川、及び琵琶湖などでの河川浄化事業＜継続＞

●近木川河口干潟の造成＜継続＞

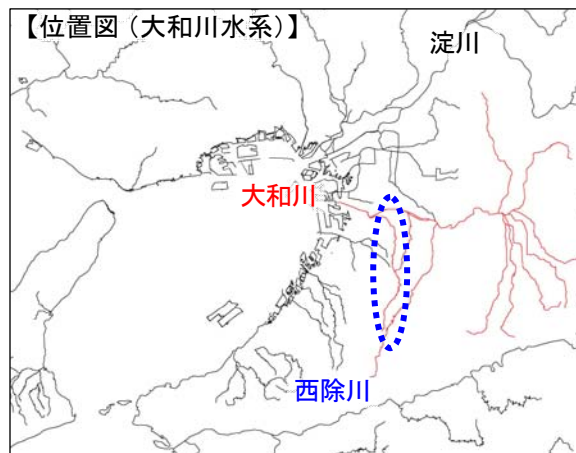
行動計画においては、河川の浄化対策については、河川浄化施設による浄化（大和川水系、寝屋川水系、樫井川など）、浄化浚渫による有機汚濁対策（寝屋川水系、石津川、樫井川など）に加え、河口干潟（近木川）などの保全・再生に伴う窒素・りん等の栄養塩類の削減を、当該河川関係住民の意見をふまえた河川整備計画に基づき、積極的に推進することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、東除川・西除川（大和川水系）で薄層流浄化施設を設置するとともに、石津川で瀬と淵浄化施設などを設置し、寝屋川、樫井川、平野川で浄化浚渫の事業を実施しました〔大阪府〕。また、大和川では、昨年度、高度機能化した河川浄化施設等の機能効果のモニタリングを実施しました〔近畿地方整備局〕。

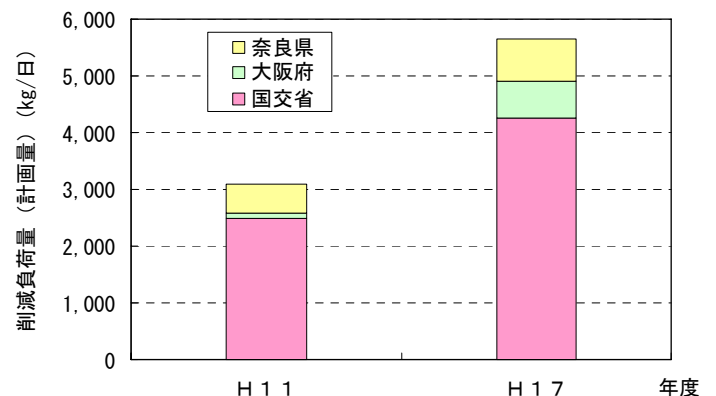
琵琶湖においても、昨年度に引き続き、平湖・柳平湖、木浜内湖、西の湖において浄化浚渫、赤野井湾に流入する天神川の汚濁負荷削減のための一時貯留池の整備を行いました〔滋賀県〕。

近木川では昨年度のワークショップ等での事業内容の検討を踏まえ、河口干潟の造成を推進しました〔大阪府〕。

また、次年度以降も、引き続き浄化事業ならびに河口干潟（近木川）造成を継続する予定です。

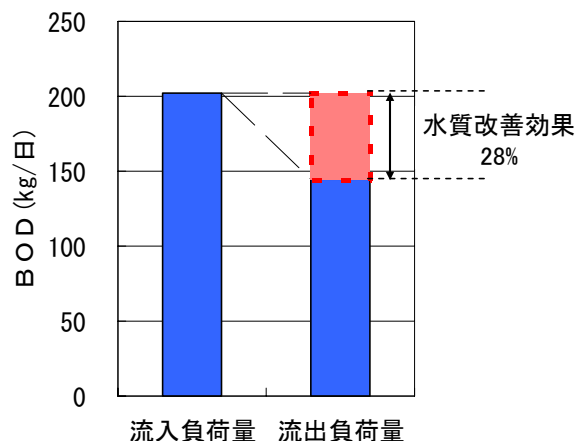


【BOD削減負荷量（計画量）】

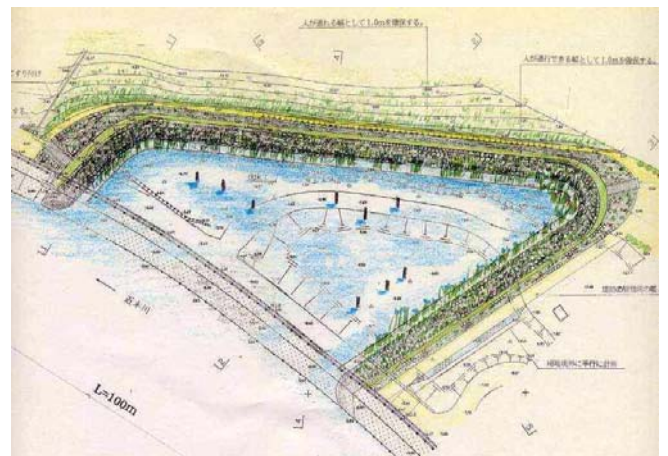


大和川水系における河川浄化施設による削減負荷量

【西除川 薄層流区間 L=2.8km】



西除川（大和川水系） 薄層流浄化施設の水質改善効果



近木川河口干潟のイメージ図

(4) 森林整備

- 箕面市の箕面国有林における都市型の「里山整備モデル林」での植生調査、「国有林における里山再生ガイドライン」の作成＜継続＞
- 公共工事での間伐材等の木材利用＜継続＞
- 森づくりへの企業参加を促すための「アドプトフォレスト制度」の推進＜継続＞

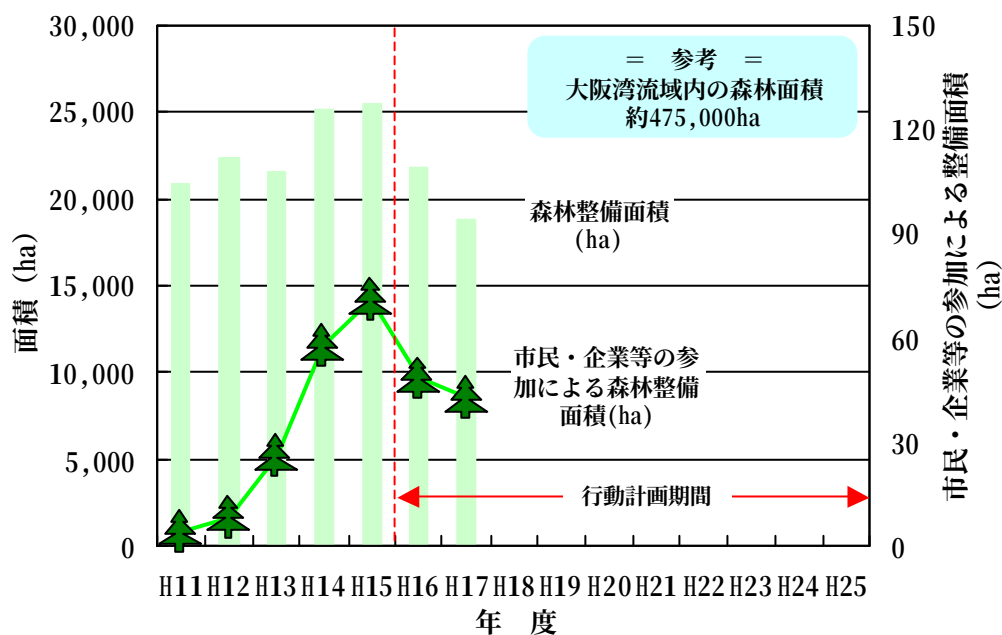
行動計画においては、「漁民の森づくり」や「里山ボランティア活動の推進」など多様な主体が参加・協力した森林整備の推進に努めるとともに、公共土木工事における間伐材の利用や、水質浄化材としての木炭や竹炭の利用など、森・川・海が連携した森づくりの取り組みや、循環型資源としての木材利用を進めることとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、箕面市の箕面国有林に設定した都市型の「里山整備モデル林」での植生調査、ボランティアによる里山整備を実施するとともに、「国有林における里山再生ガイドライン」を作成しています〔近畿中国森林管理局〕。

また、森林ボランティア団体の支援〔滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県〕や公共工事の木材利用を推進しました〔近畿中国森林管理局、各府県市〕。

その他、森づくりへの企業参加を促すための「アドプトフォレスト制度」を推進しました〔大阪府〕。

また、次年度以降も、上記の取り組みを継続するとともに、京都府では府民参画による森林整備等（京都モデルフォレスト）の取り組みを推進する予定です。



- 注) 1. H11～13年度については、“市民・企業等の参加分”の一部が不明なため集計に含まれていない。
 2. 京都府の集計には“市民・企業等の参加分”が含まれていない
 3. 大阪湾流域内の森林整備面積は、近畿中国森林管理局資料。

森林整備面積の推移

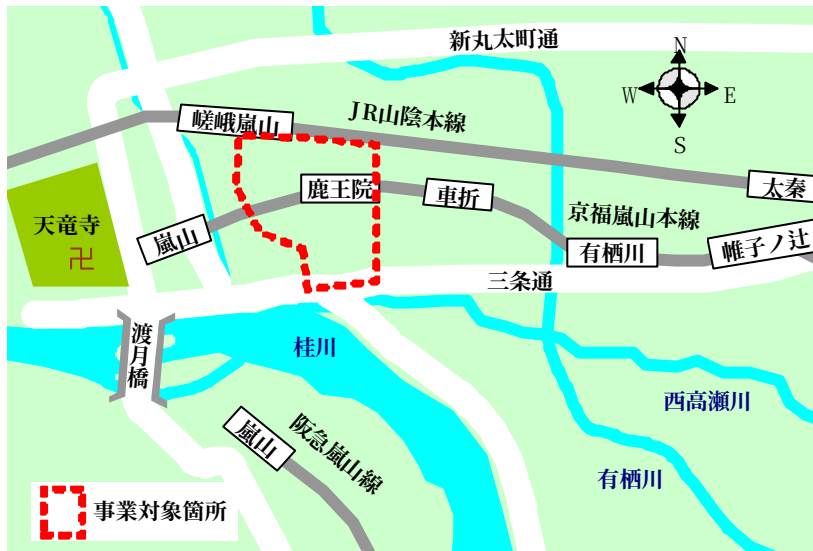
(5) 雨水流出の抑制

●雨水流出抑制対策としての浸透側溝の整備<継続>

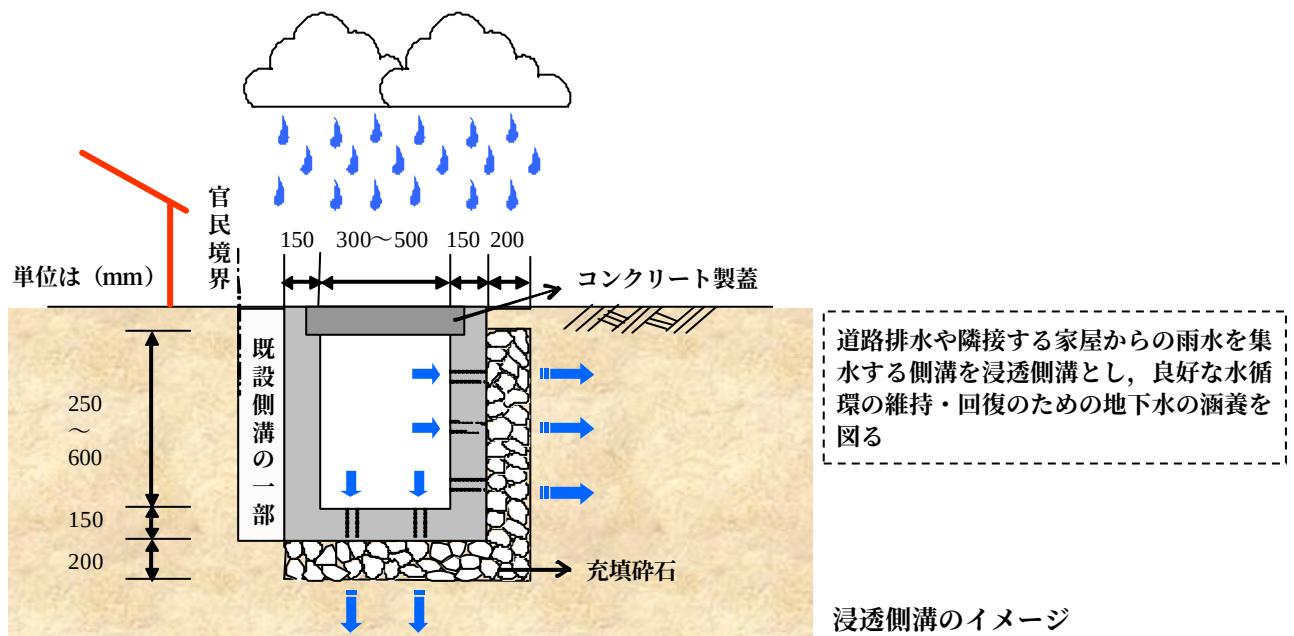
行動計画においては、面源から発生する汚濁負荷の削減を行うため、流出する負荷を浄化するとともに、貯留浸透施設の設置等により雨水の流出を抑制し、汚濁負荷の削減を図ることとしています。

今年度は、国の新世代下水道支援事業の採択を受け、有栖川流域嵯峨野地区で、浸水常襲地域の雨水流出抑制も兼ねて、浸透側溝の整備に着手しました〔京都市〕。

また、次年度以降も、上記の取り組みを継続する予定です。



浸透側溝の設置場所
(有栖川(桂川の支川)流域)



(6) 生物による水質浄化能力の強化（実験的な取り組み）

● 浜寺水路、岸和田港等でのコンブ養殖実験＜継続＞

● 西宮防波堤での環境配慮実験（ワカメ育成実験）

行動計画においては、生物による浄化能力を強化するために、既存構造物の表面の空隙を増加させる改良や潮間帯を設ける改良、コンブ養殖パネルの直立護岸への設置（浜寺水路において実証実験を実施中）等についての検討を進めることとしています。

今年度は、昨年度実証実験を実施した浜寺水路に加え、岸和田港、大阪北港においてコンブ養殖実験を実施しました〔大阪府、近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所〕。また、西宮防波堤において環境配慮実験（ワカメ育成実験）を実施しました〔近畿地方整備局神戸港湾事務所〕。

また、次年度以降も、これらの実験的な取り組みを継続する予定です。



H18.1 岸和田での種系設置



H18.5 岸和田での取り上げ



H18.1 浜寺水路での種系設置



H18.4 浜寺水路での取り上げ

コンブ養殖実験の実施状況（昨年度（平成17年））



2-2 多様な生物の生息・生育場の再生（海域生物の生息に重要な場の再生）

(1) 藻場・干潟等の創出

●藻場造成（平成 18 年度までに 3 箇所造成）＜継続＞

●干潟、砂浜等の浅海域整備＜継続＞

行動計画においては、多様な生物の生息・生育を実現するために、極力、藻場・干潟といった浅海域の整備を行うものとし、具体的には、尼崎臨海地区（「尼崎の森中央緑地（人工干潟の整備）」約 0.7ha、堺泉北港堺第 2 区（「人工干潟整備（エコポートモデル事業等）」約 10ha）等に人工干潟や浅場を整備し、神戸空港（「人工ラグーン等の整備」約 2ha）には人工ラグーンを整備し、大阪港夢洲（「舞洲と夢洲の連続した海岸線の干潟、海浜、磯場の整備」約 0.5km）等では砂浜や磯浜を整備することとしています。

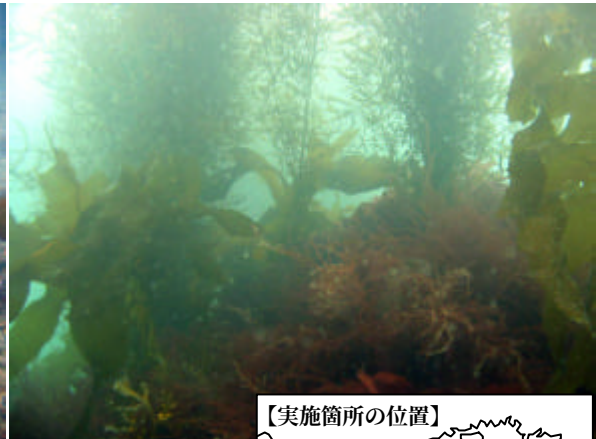
今年度は、昨年度に引き続き、藻場造成を推進し、これまでに 3 箇所（阪南市地先／12ha）を造成しました〔大阪府〕。また、堺泉北港堺第 2 区人工干潟の整備を継続して実施しました〔大阪府〕。

※干潟や藻場は、生物の生息・生育の場として重要なだけでなく、水質改善機能も有していることから、これらの取り組みは、「2-1 水質の改善（年間を通して底生生物が生息できる水質レベル・人々の親水活動に適した水質レベルの確保）」についても効果を発揮するものと期待されます。

また、次年度以降も、上記の事業を継続する予定です。



造成藻場（阪南市地先）



堺泉北港堺第 2 区人工干潟

2-3 親水性の向上（人々が快適に海に触れ合える場の再生、臨海部での人々の憩いの場の確保）

(1) 臨海部における親水緑地整備

●臨海部緑地の造成＜継続＞

行動計画においては、快適な海辺空間の充実を目指し、臨海部における親水性の高い交流拠点や公園緑地の整備を進めるものとし、具体的には、海洋性レクリエーション拠点、市民の憩いの場や環境教育の場として、ポートアイランド（「西緑地」約1km）や堺泉北港堺旧港（「堺地区（高潮事業）」約1km）等での親水護岸の整備、大阪港夢洲等での砂浜や磯浜の整備、神戸空港における人工ラグーン等（約5ha）、尼崎臨海地区（「尼崎の森中央緑地」約29ha）や堺第2区（「暫定利用緑化」約2ha）、堺第7－3区（「共生の森事業（港湾環境整備事業）」約12ha）などで海辺空間としての緑地の整備を行うこととしています。

今年度は、昨年度に引き続き、堺第7－3区における共生の森の整備（基盤造成及び地盤改良）を市民ボランティアと協働で実施する〔大阪府〕とともに、尼崎臨海地域の緑化（尼崎21世紀の森）〔兵庫県〕、昨年度完成した神戸空港人工ラグーンの背後緑地の整備〔神戸市〕を実施しました。

また、次年度以降も、上記の事業を継続する予定です。



共生の森（堺第7－3区）事業 （市民ボランティアによる植樹の様子）

(2) 親水活動の実施

●「なぎさ海道」ウォーク、「阪神なぎさ回廊ウォーク」＜継続＞

行動計画においては、人と海とが豊かに触れ合う魅力ある海辺空間の象徴として、「なぎさ海道」、「なぎさ海道ウォーク」等による活動を今後も推進することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、「なぎさ海道」ウォーク〔(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構〕及び「阪神なぎさ回廊ウォーク」〔兵庫県〕を実施しました。

また、次年度以降も、これらの取り組みを継続する予定です。

【参考】

- ・「なぎさ海道」ウォーク：参加者 10,536 人、24 回実施（大阪湾沿岸、平成 19 年 1 月時点）
- ・阪神なぎさ回廊ウォーク：参加者 152 人（11/26(日)に 3 コース実施）



「なぎさ海道」ウォーク（明石海峡大橋）



「なぎさ海道」ウォーク（りんくう公園・マーブルビーチ）



阪神なぎさ回廊ウォーク（西宮港大橋）



阪神なぎさ回廊ウォーク（ベイサイドカフェ）

2-4 浮遊・漂着・海底ごみの削減（ごみのない美しい海岸線・海域の確保）

(1) 河川清掃活動

- 「3000 万人瀬戸内海クリーン大作戦」「淀川わんどクリーン大作戦」「環境美化推進の日」「大和川クリーンアップデー」等と連携した河川清掃＜継続＞

行動計画においては、今後も市民活動等との連携による清掃活動を推進するとともに、ごみの種類の分類、海域でのごみ漂着の実態を広く一般に提示することなどを通じて発生源におけるごみ削減の基盤づくりを支援することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、「3000 万人瀬戸内海クリーン大作戦」「淀川わんどクリーン大作戦」「環境美化推進の日」「大和川クリーンアップデー」等と連携した河川清掃活動を実施しました〔近畿地方整備局、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、京都市、大阪市、堺市、神戸市など〕。

また、次年度以降も、関係機関や関係部署と連携し、上記の事業を継続する予定です。

【参考】

- ・河川におけるごみ回収量：約 39 トン（市民参画による取り組み）
約 195 トン（行政による取り組み）
合計：約 234 トン



大和川クリーンデー



環境美化推進の日（猪名川）



名張クリーン大作戦 2006



大阪湾再生ロゴつきタオル

河川清掃活動の様子

(2) ごみ回収（漂着、浮遊、海底ごみ）

- 「大阪湾クリーン作戦」、「リフレッシュ瀬戸内」、海洋環境整備船等によるごみ回収＜継続＞
- 底びき漁船による海底ごみ除去＜継続＞

行動計画においては、ごみ発生防止に当たっては、「大阪湾クリーン作戦」や「魚庭（なにな）の海づくり大会」、南港野鳥園、阪南市福島海岸等での「港湾・海岸美化活動」などの河川、海域における住民、NPO、企業などが実施しているあらゆる美化活動と連携し、さらにこの活動を発展させ投棄ごみの削減を目的とした環境広報活動等を行うこととしています。また、海底ごみについて大阪湾全域を対象とした漁業者の協力を引き続き得ながら回収活動を行うこととしています。

今年度は、昨年度に引き続き、「大阪湾クリーン作戦」[第五管区海上保安本部]、「リフレッシュ瀬戸内」[海の路ネットワーク推進協議会]、海洋環境整備船による浮遊ごみ回収[近畿地方整備局]及び底びき漁船による海底ごみの除去[大阪府]を実施しました。

また、次年度以降も、上記の取り組みを継続する予定です。

【参考】

- ・大阪湾クリーン作戦：82 機関・団体 15,605 人の参加、約 769 トン回収 [第五管区海上保安本部]
- ・リフレッシュ瀬戸内：4,063 人参加、41 トン回収 [海の路ネットワーク推進協議会]
- ・海洋環境整備事業（海洋環境整備船による浮遊ごみ回収）：2,416 m³（4-12 月）[近畿地方整備局]
- ・底びき漁船による海底ごみの除去：海底ごみ 67m³ [大阪府]



ごみ回収風景（神戸須磨海岸）



ボランティアダイバーによる海底ごみ回収風景



大阪湾クリーン作戦ポスター
（大阪湾再生ロゴつき）



海底ごみ回収状況
（ビニールゴミ等が漁具の爪や網にかかっている）

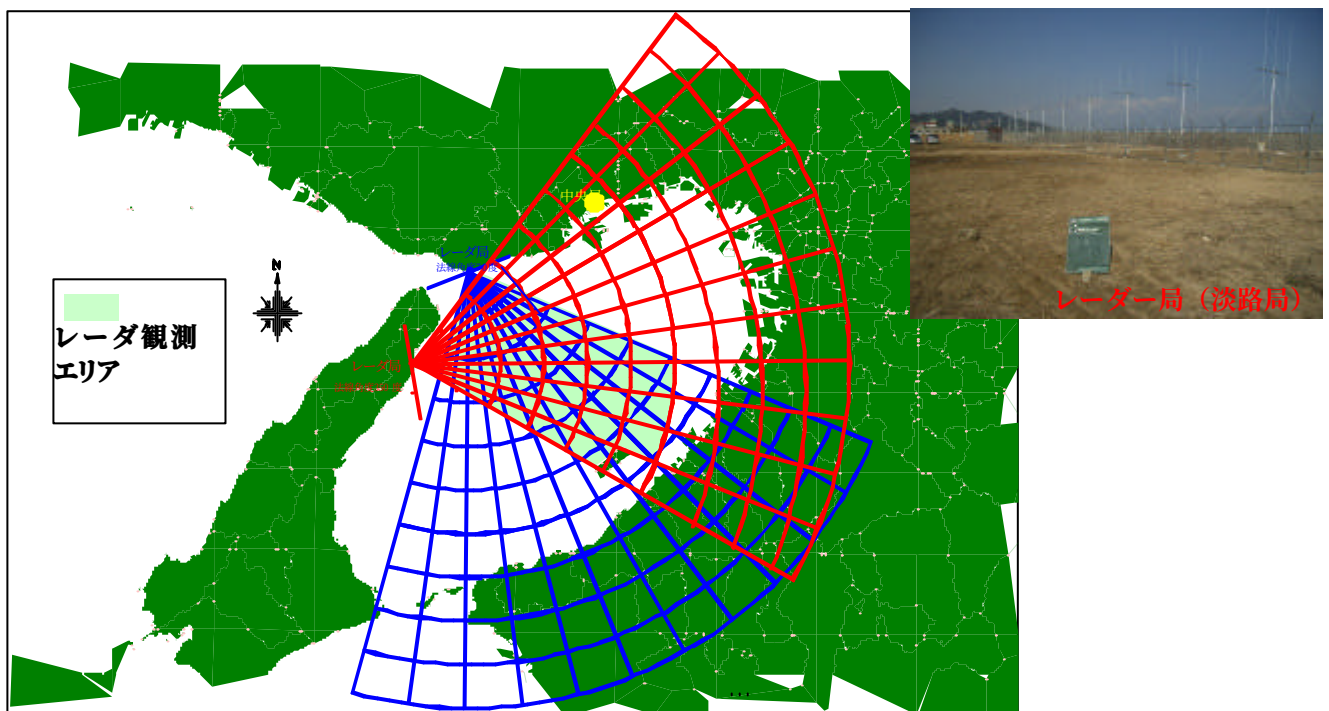
(3) 浮遊ごみ流出機構の把握

●海洋短波レーダ（DBFレーダ）による海面表層流観測＜継続＞

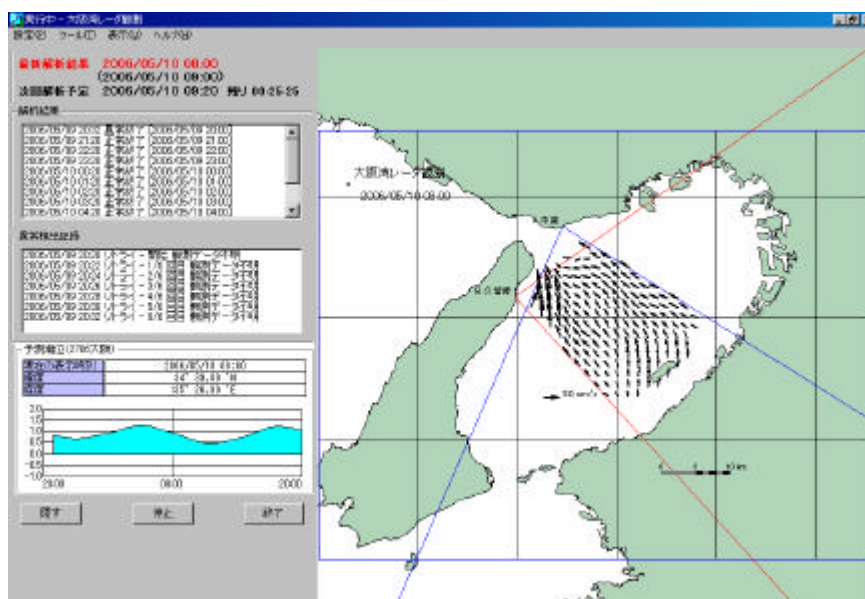
行動計画においては、精度の高い浮遊ごみ分布予測システムの構築、回収履歴等のデータベース化について検討を進めることとしています。

今年度は、昨年度設置した海洋短波レーダ（DBFレーダ）により海面表層流の観測を開始し、観測データの精度検証ならびにデータの配信システムを構築しています〔近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所〕。

また、次年度以降は、インターネットによるデータの配信を本格的に実施するほか、ごみ回収効率化のための浮遊予測システムの構築や大学等と連携して環境監視システムの検討を始める予定です。



海洋レーダ レーダ観測範囲



流況解析データ

2-5 重点エリアにおける集中的・先駆的な取り組み

(1) 尼崎臨海部、堺浜周辺における取り組み

●水環境やパブリックアクセス改善のための集中的かつ先駆的な取り組み<継続>

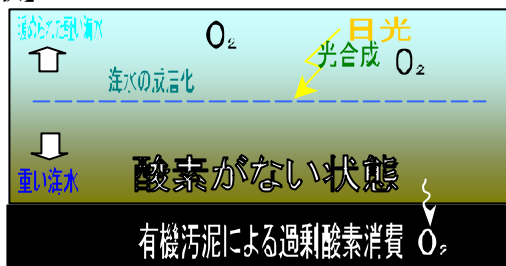
① 尼崎臨海部における集中的・先駆的な取り組み

- a. 武庫川下流浄化センターの高度処理化〔兵庫県〕（流入負荷の削減）
- b. 尼崎シーブルー事業（各種の水質浄化実験）
- c. 尼崎臨海地域の緑化（尼崎の森中央緑地）〔兵庫県〕（緑地整備）
- d. 海岸環境整備事業〔兵庫県〕（遊歩道整備、植栽等）

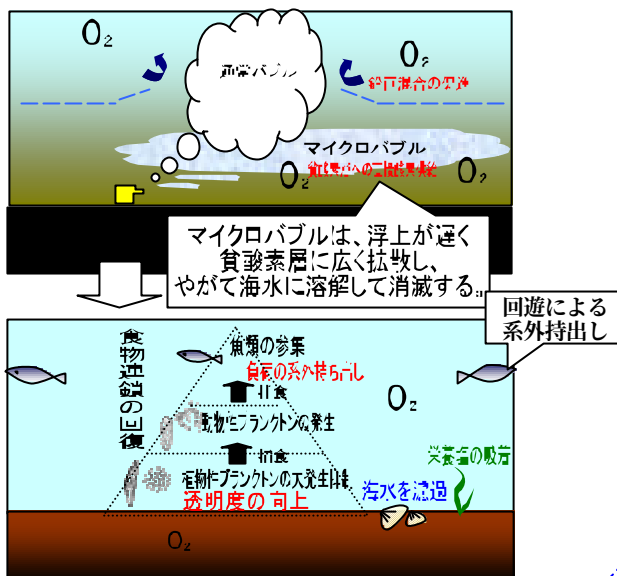


マイクロバブルエアレーション実証実施風景（尼崎シーブルー事業）

【現状】



【マイクロバブルによる水質改善のメカニズム】



尼崎の森中央緑地の整備
（「尼崎 21 世紀の森」のリーディングプロジェクト）

②堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み

- a. 清流ルネッサンスII計画 [近畿地方整備局、大阪府、奈良県] (流入負荷の削減)
- b. ミニ人工干潟 [大阪府] (実験用干潟)
- c. 内川・土居川での水質改善事業 [堺市] (水質浄化、底質改善等)
- d. 堺第2区堺第2区人工干潟 [大阪府] (干潟整備)
- e. 堺第2区 (堺浜) 暫定利用緑地整備事業 [堺市] (緑地整備)

また、次年度以降も、これらの改善効果が早期に発現するよう、上記の取り組みを継続する予定です。



3. 大阪湾再生のためのモニタリング

3-1 大阪湾の環境を監視するためのモニタリング

(1) 効果的・効率的なモニタリングの実施

- 国、沿岸府県と臨海部の事業者・企業等との連携による「大阪湾再生水質一斉調査」
 ＜継続＞

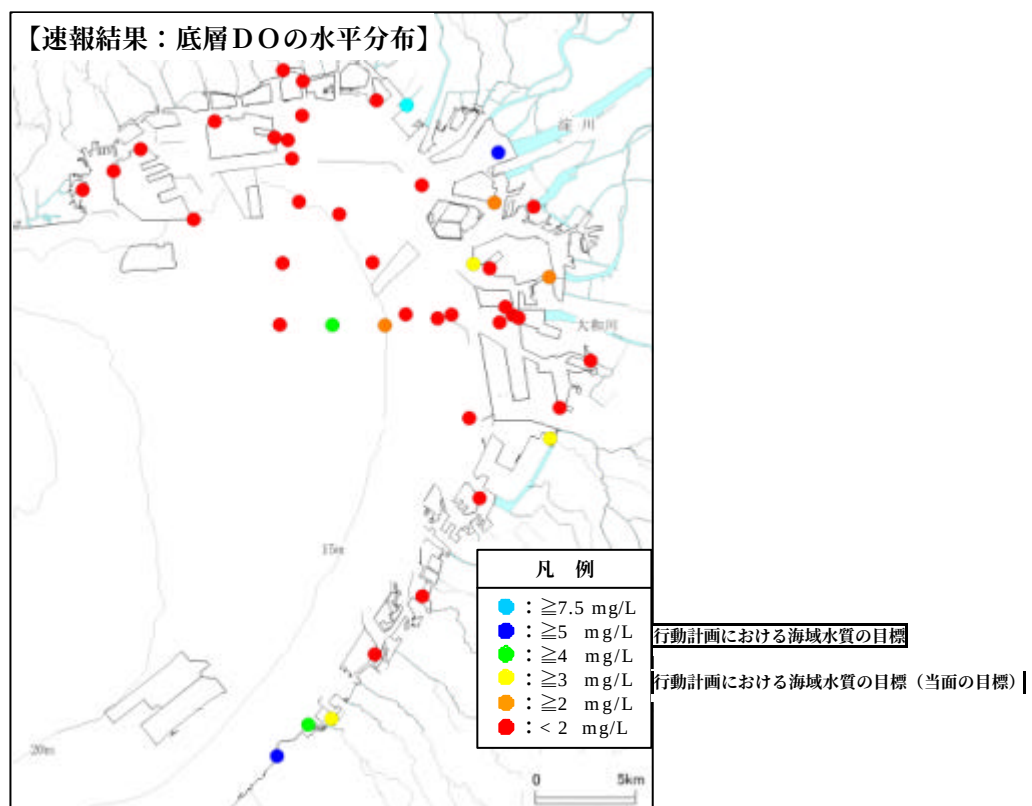
行動計画においては、効果的かつ効率的なモニタリングを実施するために、調査項目等の統一化・集約化を行っていく必要があることから、関係機関が連携したモニタリングの実施体制を検討することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、国土交通省、大阪府、兵庫県、大阪市、堺市や神戸市などの沿岸市に加え、臨海部の事業者や企業等が連携し、平成 18 年 8 月に海域と陸域（河川）で、水質一斉調査を実施しました。

また、次年度以降も、水質一斉調査を継続する予定（8 月 7 日予定）です。

〔調査内容〕

- ・測定水深の統一化を図り大阪湾全域での水質水平分布を把握
 - ・あわせて水平的、鉛直的な貧酸素水塊の分布把握を目的に測線調査を実施
 - ・一斉調査の一時的な調査結果を補足する連続調査を実施
- 一斉調査の翌日（8 月 3 日）に速報結果を公表



注）本結果は速報値であり、確定後訂正される可能性のある値である。

大阪湾再生水質一斉調査 速報結果（8 月 3 日報道発表）

(2) モニタリング内容の充実化

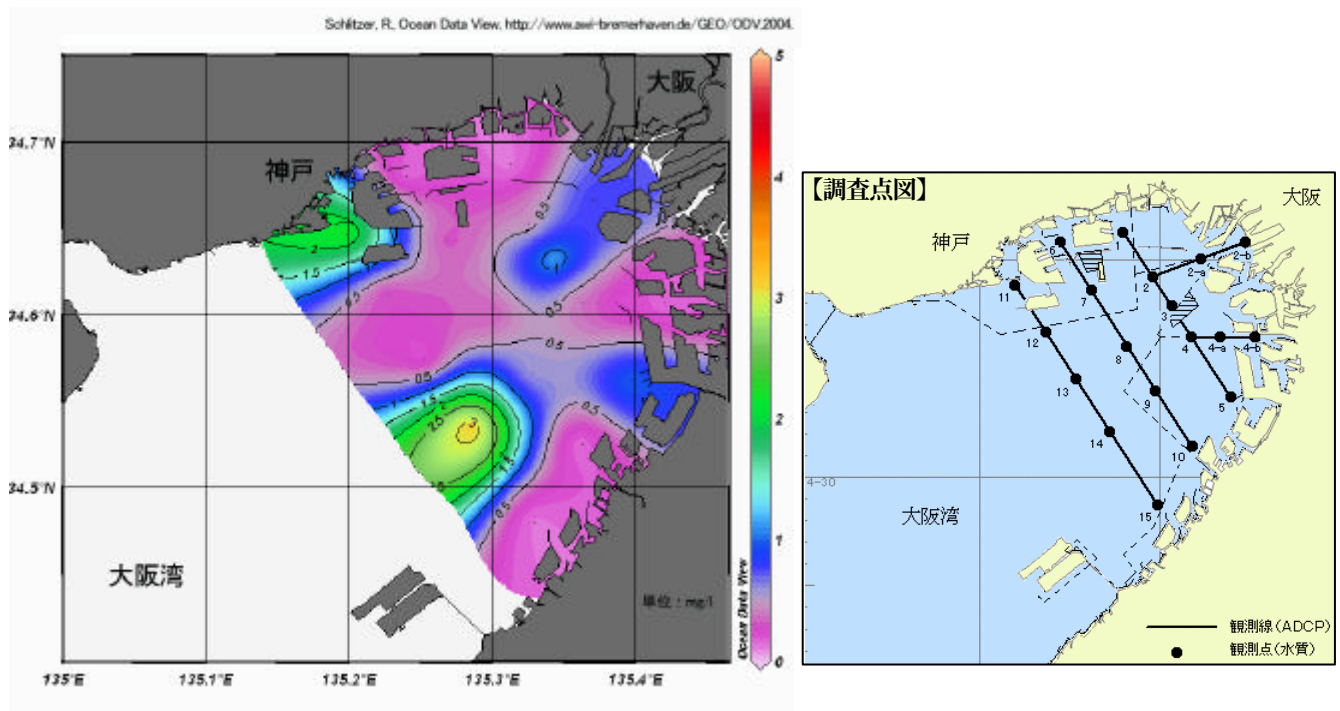
●「大阪湾環境保全調査」における溶存酸素濃度（DO）測定を追加、調査結果の公開 ＜継続＞

行動計画においては、湾再生において各種環境改善施策が「水質の改善」「多様な生物の生息」「親水性の向上」「浮遊・漂着・海底ごみの削減」といった目標に対して講じられることから、これらを視野に入れたモニタリングの内容を一層充実していくことととしています。特に、生物に被害を及ぼす貧酸素水塊の発生状況を的確に把握するために、DOのモニタリングを充実することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、公共用水域水質測定計画に基づく常時監視〔大阪府、兵庫県、大阪市、堺市、神戸市など〕、瀬戸内海総合水質調査〔近畿地方整備局神戸港湾事務所〕、地球観測衛星画像による海域のモニタリング〔第五管区海上保安本部〕等のモニタリングに加え、大阪湾東部で実施している大阪湾環境保全調査において溶存酸素濃度（DO）の測定を追加し、調査結果をホームページで公開〔第五管区海上保安本部〕しました。また、海洋環境整備船による水質調査においても、溶存酸素濃度（DO）の測定を追加しました〔近畿地方整備局神戸港湾事務所〕。

また、次年度以降も、これらのモニタリングを継続する予定です。

【溶存酸素濃度（DO）の水平分布（底層（海底面上1 m））】



大阪湾環境保全調査による測定結果（平成18年8月）

3-2 市民一人一人が参加するモニタリング

(1) 市民参加によるモニタリングの実施

- 「ウミホタル」や「ちりめんじゃこ」の観察会＜継続＞
- 新しい水質指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、水生生物の生息）による川の水質の評価＜継続＞

行動計画においては、市民参加を促進するためには、市民にとってわかりやすく、地域の生活や興味と密着したテーマのモニタリング活動の場を提供することが重要であるとしています。

今年度は、昨年度に引きつづき、市民にとってわかりやすく、地域の生活や興味と密着したテーマのモニタリングが多くの市民の参加により実施されました。

海では、きれいな海の指標とされる「ウミホタル」の観察会や稚魚・幼生が混在している選別前の「ちりめんじゃこ」の観察会を実施しました〔大阪府〕。

河川では、地元住民と協働して「ゴミの量」、「透視度」、「川底の感触」、「水の臭い」、「水生生物の生息状況」といった新しい水質指標による水質の評価を実施しました〔近畿地方整備局河川部〕。

また、次年度以降も、これらの取り組みを継続するとともに、「ちりめんじゃこ」の観察会については教員等を対象にリーダー養成講座を開催する予定です。



ウミホタル



仕掛けの投げ込み

「ウミホタル」の観察会



「ちりめんじゃこ」の観察会



川の水質評価（水生生物の生息状況）
（図版 川の指標生物：大阪湾再生ログつき）

3-3 大阪湾のモニタリング結果など環境に関する情報の共有化と発信

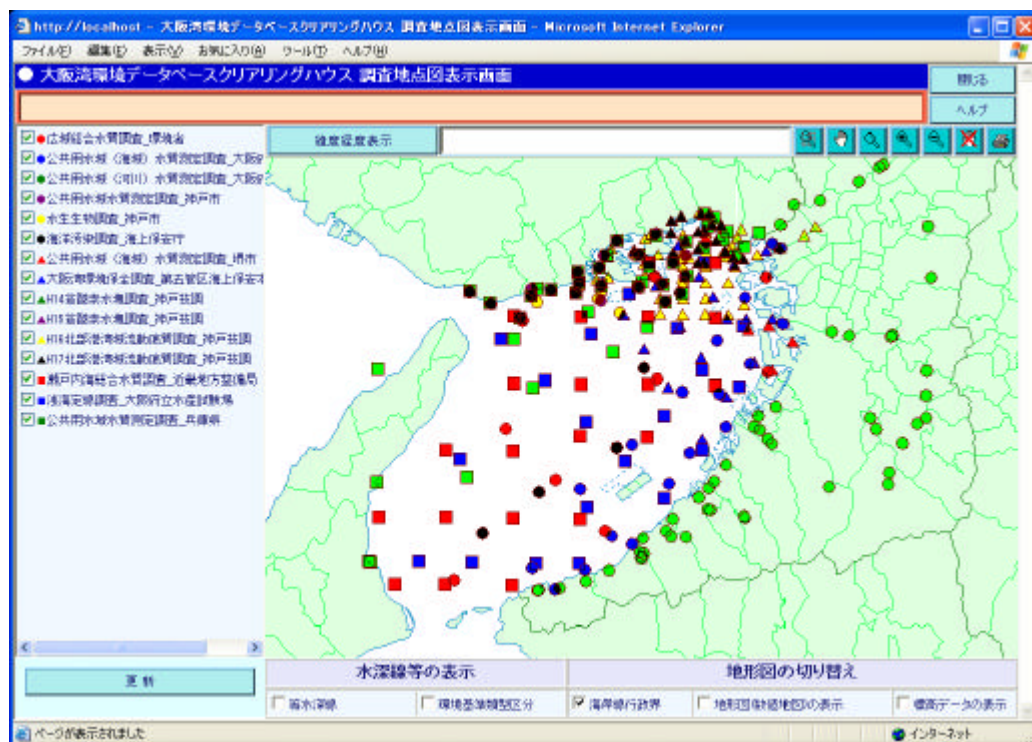
(1) 大阪湾環境データベース

●大阪湾再生のためのモニタリング実施状況の集約・公開＜継続＞

行動計画においては、モニタリング結果等の情報を広く有効に活用するためには、情報の共有化を図るとともに、大阪湾の環境改善への関心を高めるために市民にわかりやすい形で発信していくことが必要であるとしています。また、国土交通省近畿地方整備局が整備を進めている大阪湾環境データベース（<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/>）を活用して大阪湾再生のためのモニタリングに関する情報・データを一元的に集約・管理し、発信することにより、情報を広く有効に活用することとしています。

今年度は、国、地方自治体等によるモニタリングの実施状況を集約し、「大阪湾環境データベース」（クリアリングハウス）で公開する予定です。また、「大阪湾環境データベース」を市民がより利用しやすくするために、大阪湾環境再生連絡会において市民、学識者のアドバイスを得ながら検討を進めました。〔近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所〕

また、次年度以降も、これらの取り組みを継続する予定です。



「大阪湾環境データベース」（クリアリングハウス）での公開イメージ【地点図】

4. 目標の達成状況

平成18年度時点における「大阪湾再生行動計画」の具体的な目標の達成状況は次のとおりです。

「(1)海域生物の生息に重要な場を再生する」～「(3)臨海部での人々の憩いの場を確保する」における各年度の数量は『整備完了』のみであり、この他にも整備が進められています。

(1) 海域生物の生息に重要な場を再生する

① 干潟

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha
目 標	約13 ha 参考) 行動計画策定時の目標：約10ha			

注) 行動計画策定時(H16.3月末)の大阪湾全体の干潟面積は15haである。

参考) 現在進行中の整備状況 堺泉北港堺第2区人工干潟(大阪府)

先端緑地整備等(泉北6区/大阪府)

② 藻場

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計
整備完了 (整備中は除く)	6.8 ha	5.8 ha	0 ha	12.6 ha
目 標	約24.6 ha 参考) 行動計画策定時には具体的目標なし			

参考) 現在進行中の整備状況 増養殖場造成事業(阪南市地先、岬町地先/大阪府)

③ 浅場

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	2.4 ha	0 ha	2.4 ha
目 標	約2.4 ha 参考) 行動計画策定時の目標：約2 ha			

【目標を達成】

④ 砂浜

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計
整備完了 (整備中は除く)	0 km	0 km	0 km	0 km
目 標	約0.5 km 参考) 行動計画策定時の目標：約0.5 km			

参考) 現在進行中の整備状況 干潟、海浜、磯場の整備(舞洲、夢洲/大阪市)

⑤ 礫浜

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計
整備完了 (整備中は除く)	現時点で具体的目標なし			
目 標				

(2) 人々が快適に触れ合える場を再生する

【自然的な海岸線延長】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	1.0 km	0.3 km	0.2 km	1.5 km
目 標	約 6.6 km 参考) 行動計画策定時の目標：約 3.7 km			

参考) 今年度の整備状況 海岸環境整備事業 (尼崎／兵庫県)

海岸整備 (福島地区／大阪府)

現在進行中の整備状況 西緑地造成 (ポートアイランド／神戸市)

人工干潟・緑地整備・暫定緑化 (堺 2 区／大阪府)

親水護岸整備 (堺旧港／大阪府)

(3) 臨海部での人々の憩いの場を確保する

【臨海緑地】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	計
整備完了 (整備中は除く)	5.68 ha	4.55 ha	8.3 ha	18.53 ha
目 標	約 240.2 ha 参考) 行動計画策定時の目標：88.7 ha			

参考) 今年度の整備状況 人工ラグーン等の整備 (神戸空港／神戸市)

尼崎臨海地域の緑化 (尼崎 21 世紀の森) (尼崎／兵庫県)

共生の森事業 (堺第 7－3 区／大阪府)

府営公園の整備及び管理 (二色の浜公園、りんくう公園、せんなん里海公園／大阪府)

現在進行中の整備状況 人工干潟・緑地整備・暫定緑化 (堺 2 区／大阪府)

先端緑地整備等 (泉北 6 区／大阪府)

人工干潟造成等と実証実験 (阪南 2 区／大阪府)

ふれあい漁港漁村整備事業 (深日漁港、小島漁港／大阪府)

(4) ごみのない美しい海岸線・海域を確保する

【行政による取り組み】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
浮遊ごみ	1013.7 t	213.2 t	724.8 t
漂着ごみ	48.9 t	48.0 t	—
海底ごみ	430.8 t	441.0 t	20.1 t
河川ごみ	—	109.8 t	195.4 t
計	1493.4 t	812.0 t	925.4 t

注) 1. 浮遊ごみ回収量が平成 16 年度に非常に多かったのは台風の影響によるものと考えられます。

2. 河川ごみは 6、7 月分の集計です。

【市民参画による取り組み】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
漂着ごみ	10.6 t	76.1 t	42.3 t
河川ごみ	37.2 t	25.6 t	39.1 t
不 明	881.6 t	728.0 t	857.4 t
計	929.4 t	829.7 t	938.8 t

注) 河川ごみは 6、7 月の活動の集計です。

参考) 参加状況 平成 17 年度：のべ 36,202 人

平成 18 年度：のべ 29,820 人

5. 市民参加の取り組みを中心としたマスコミ報道状況（平成 18 年 4 月～平成 19 年 1 月）

(1) マスコミ報道の状況

マスコミの方々にも行政と市民との協働の取り組みが理解され、興味と期待を持っていただき、テレビ・新聞とも、継続的に追跡取材を受けています。

(2) テレビ放映等

平成18年4月～平成19年1月までの約1年間の大阪湾再生関係のテレビ等による報道については、テレビ放映3件、ラジオ放送2件の計5件ありました。

(3) 新聞等

新聞等の報道については、産経新聞2件、読売新聞3件、毎日新聞2件、朝日新聞2件、朝日小学生新聞1件、大阪日日新聞2件、神戸新聞3件、日刊建設工業新聞5件、日本海事新聞6件、日刊海事通信2件、マリタイムデーリーニュース1件、みなと新聞1件、釣具新聞1件、「瀬戸内海」（雑誌）3件の計34件と多数にわたっています。

産経新聞 平成 18 年 12 月 28 日（木）

大和川で確認されたアユの仔魚（大和川河川事務所提供）

水質ワースト上位 汚名返上

大和川の河口に天然アユ仔魚

水質ワースト上位の汚名を返上。大和川の河口付近に確認されたアユの仔魚。大阪府河川事務所は、大和川の水質がワースト上位であることを公表した。大和川の水質は、大阪府河川事務所が公表した水質調査の結果、ワースト上位の汚名を返上した。大和川の水質は、大阪府河川事務所が公表した水質調査の結果、ワースト上位の汚名を返上した。

みなと新聞 平成 18 年 7 月 19 日（水）

きれいな海 取り戻そう 大阪港で一斉清掃

大阪港で一斉清掃。大阪港の清掃活動が行われ、多くの市民が参加した。清掃活動は、大阪港の清掃活動が行われ、多くの市民が参加した。清掃活動は、大阪港の清掃活動が行われ、多くの市民が参加した。

読売新聞 平成 18 年 6 月 6 日（火）

第5回魚庭の海づくり大会

漁師は海の語り人が合言葉

「漁師は海の語り人が合言葉」。第5回魚庭の海づくり大会が開催された。大会では、漁師の話を聞き、海の大切さを学ぶ機会があった。

朝日小学生新聞 平成 18 年 8 月 4 日（金）

チリメンジャコ素材に自然環境の大切さを学ぶ

チリメンジャコ素材に自然環境の大切さを学ぶ。大阪府河川事務所は、チリメンジャコ素材に自然環境の大切さを学ぶ機会があった。

大阪府河川事務所

大阪府河川事務所は、大和川の水質がワースト上位であることを公表した。大和川の水質は、大阪府河川事務所が公表した水質調査の結果、ワースト上位の汚名を返上した。大和川の水質は、大阪府河川事務所が公表した水質調査の結果、ワースト上位の汚名を返上した。

大阪府河川事務所は、大和川の水質がワースト上位であることを公表した。大和川の水質は、大阪府河川事務所が公表した水質調査の結果、ワースト上位の汚名を返上した。大和川の水質は、大阪府河川事務所が公表した水質調査の結果、ワースト上位の汚名を返上した。

【資料：マスコミ等による報道状況】

◆平成18年度 大阪湾再生関係 報道状況（新聞等）

日付	媒体	タイトル等	名 称	件数(件)
2006/5/19	朝日新聞	大阪湾 巨大穴 阪神港土砂で埋め戻し検討		
2006/5/19	日刊海事通信	大阪湾港湾連携推進協、大阪湾の環境改善へ 広域連携で6月から検討開始		
2006/5/22	日本海事新聞	浚渫工事土砂 深掘り跡に埋め戻し検討 大阪湾港湾連携推進協		
2006/5/22	日刊建設工業新聞	深掘り跡に浚渫土 近畿整備局港湾空港部 埋め戻し方策を検討		
2006/5/26	釣具新聞	大阪湾クリーン作戦 6月4日を「一斉清掃日」とし80団体以上参加		
2006/5/31	日本海事新聞	大阪湾クリーン作戦		
2006/6/1	日本海事新聞	初の試み一斉清掃		
2006/6/6	毎日新聞	40人のダイバー海底清掃を実施 大阪港		
2006/6/6	読売新聞	きれいな海 取り戻そう 大阪港で一斉清掃		
2006/6/15	日本海事新聞	一斉清掃でゴミ27トン回収		
2006/6/20	日刊建設工業新聞	覆砂材確保、浚渫土の品質改良推進 港湾関係の環境関連施策 国交省		
2006/6/21	日本海事新聞	未来に残そう青い海		
2006/6/23	日刊建設工業新聞	浚渫土砂による窪地埋め戻し 実現可能性検討へ 大阪湾港湾連携推進協		
2006/6/23	日本海事新聞	浚渫土砂で湾内の窪地埋め立て 大阪湾港湾連携協議会が検討へ		
2006/6/23	日刊海事通信	大阪湾港湾連携協議会、窪地対策で協議 埋め戻し策が課題		
2006/6/23	マリタイムデリーニュース	大阪湾内の「窪地」活用の環境保全貢献で 大阪湾港湾連携推進協議会が可能性を検討		
2006/7/3	読売新聞	干潟のアオサを取り除く		
2006/7/11	神戸新聞	神戸工科高校新聞部の4人 海水浴場で水質調査		
2006/7/19	みなと新聞	第5回魚庭の海づくり大会 漁師は海の護り人 が合言葉		
2006/8/4	産経新聞	大阪湾酸素不足 原因不明、環境 漁業へ影響心配	産経新聞	2
2006/8/13	朝日新聞	大阪湾の水質調査参加を ボランティアNPOが募集	読売新聞	3
2006/8/19	大阪日日新聞	魚介の敵青潮食い止める 発生源海底の大穴埋め戻し	毎日新聞	2
2006/8/21	神戸新聞	青潮の発生源 海底巨大くぼ地 環境改善へ埋め戻し	朝日新聞	2
2006/8/24	日刊建設工業新聞	可搬装置で水流発生 閉鎖性水域の環境改善	朝日小学生新聞	1
2006/8/25	大阪日日新聞	よみがえれチヌの海 大阪湾に稚魚3万匹放流	大阪日日新聞	2
2006/8/26	神戸新聞	スナメリみつけた 大阪湾、フェリー航路 絶滅危惧の小型クジラ1日6回目撃も	神戸新聞	3
2006/9/4	読売新聞	青潮大阪湾4年で7度頻発 国交省調査、埋戻し検討	日刊建設工業新聞	5
2006/9/14	日刊建設工業新聞	アマモ場再生関連技術拡充	日本海事新聞	6
2006/12/13	朝日小学生新聞	チリメンジャコ素材に自然環境の大切さ学ぶ	日刊海事通信	2
2006/12/28	産経新聞	水質ワースト上位汚名返上 大和川の河口に天然？アユ仔魚	マリタイムデリーニュース	1
2006/12/28	毎日新聞	数十年ぶりアユの稚魚 大和川	みなと新聞	1
2006年6月 (No.46)	瀬戸内海	大阪湾クリーン作戦 第23回)の実施について 第五管区海上保安本部	釣具新聞	1
2006年9月 (No.47)	瀬戸内海	瀬戸内海各地のうごき 大阪府で開催 夏休み特別企画 大阪湾見学バスツアー ～「大阪湾再生アピールポイント」めぐり～	瀬戸内海	3
		瀬戸内海各地のうごき 大阪市で実施 リフレッシュ瀬戸内	合 計	34

◆平成18年度 大阪湾再生関係 報道状況（テレビ等）

日付	媒体	タイトル等	備考
2006/8/25	ラジオ大阪	「ニュースワンダーランド」 きんきワンダーランド	
2006/9/8	ラジオ大阪	「ニュースワンダーランド」 きんきワンダーランド	
2006/8/29	ABC放送	ウミホタル観察会	
2006/10/11	ABC放送	大阪湾 青潮	放映時間 7分
2006/11/6	テレビ朝日	海の悲鳴～開発のツケ、海底の穴がもたらす青潮～	放映時間 30分
合計：	5件		